



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



低コストの現地検討会の様子（飛騨署管内）

低コスト・高効率作業システム

導入に向けて現地検討会を開催

（P2に関連記事）

主な項目	○ 低コスト・高効率作業システム導入に向けて現地検討会を開催 …………… P 2
	○ 有志協議会の開催と町村議会議員等が国有林視察 …………… P 2
	○ 各地からのたより …………… P 5



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

低コスト・高効率作業システム導入に向けての現地検討会を 飛騨署で開催

【販売課】十月二十三日、飛騨森林管理署管内の山中山国有林において、中部森林管理局主催による、低コスト・高効率作業システム導入に向けた現地検討会を開催し、富山・岐阜・愛知の各県、林業事業者、林野庁、森林管理署等の関係者約八十名が参加しました。

本検討会は、昨年に引き続き実施したもので、活力ある森林づくりのために必要な間伐の効率的な実施に向けて、作業路網と高性能林業機械を組み合わせた作業システムの普及・啓発を図るため、民有林施策との連携を図りつつ、国有林が率先的な役割を果たすことを目的に開催したものです。

現地ではまず、前原飛騨署長から、「単年度ではなく、トータルコストとして団地全体を捉え、その山にあった作業システムを検討した請負事業の実践であり、国産材の利用の拡大に向け、事業者の意識が重要」との基本的認識が示されました。

現地は、四万十方式を基本とし、現地状況に応じた作業方法を検討・実施している箇所、粘土質の路盤に対応するため土壌固化剤の使用や末木丸太の敷き詰め、地表の水処理を考慮した横断水路の設置など、署独自の考え方や工夫が随



路網の説明をする飯村上席森林官

所に見られ、実施に当たったの考え方や苦労談、今後の課題等について飛騨署の熊崎業務第二課長、飯村上席森林官らが説明し、その後、林野庁の小原企画官からアドバイスをいただくなか、参加者からは低コスト・高効率作業システムの企画・普及・実践をするという観点から積極的な意見、質疑が出されました。

本年度、中部局においては飛騨・木曾・岐阜の三署において請負による低コスト作業システムを試行的に実施し、それらを活用したデータの収集や企画者・オペレーターへの養成を行うこととしています。

当該作業システムの推進に当たっては、企画者として事業を発注する各森林管理署等担当者の養成と事業者オペレーターの養成が最も重要であり、今後においても現地検討会や研修会を実施し、現地に合った作業システムの検討・普及に努めていくことが必要になっています。

今回の現地検討会では、新たな国産材需要を見据え、民・国を通じた木材安定供給体制の確立、適切な森林の整備に

は、トータルコストの低減による生産性の向上、低コスト・高効率作業システムの普及が重要との認識を深めることができ、今後更に局、名古屋事務所及び関係署等が連携し取り組むこととしていきます。

有志協議会の開催と 町村議会議員・林業関係者・ JICAが国有林視察

平成十九年度

国有林野等所在市町村長 有志連絡協議会を開催

【企画調整室】十月二十九日、中信森林管理署会議室（松本市）において平成十九年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

本会議の開催に先立ち、七月から十月中旬に掛けて、各署等において管内各ブロックの有志協議会を開催し、身近な問題について市町村と意見を交わしました。

これを踏まえ本会議には、管内各ブロックを代表する市町村長等と、当局から小緑局長、小林次長ほか関係者が出席したほか、林野庁から井上職員・厚生課長、石原技術開発室長が出席しました。

会議の冒頭に、小緑局長から、日頃の業務運営等に対する支援への感謝と今後とも国有林を適切に管理経営していくのご協力を願うとの挨拶があり、また林野庁井上職員・厚生課長からは、中



有志連絡協議会の様子

央情勢についての説明等がありました。続いて、計画部長及び森林整備部長より平成十九年度の主な取組事業等の紹介をした後、意見交換を行いました。

意見交換では、各市町村長から、それぞれ地域の実情を踏まえ、温暖化対策、シカやクマの被害対策、緑資源機構の廃止、官行造林、木材利用の推進、国有林野の利活用、登山道の整備等、多岐にわたり活発な意見が交わされ、市町村の国有林に対する大きな期待が感じられた会議となりました。

有志協木曾地区総会を開催

【木曾署】十月十一日、木曾署多目的

ホールにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会木曾地区総会を開催しました。本総会には、木曾谷六町村の首長及び代表者、国有林からは木曾署長、南木曾支署長、ふれあいセンター所長等の



町村を代表して挨拶する
瀬戸王滝村長

関係者が出席し開催しました。
はじめに代表世話人を務める瀬戸王滝村長から「地方行政においては大きな変革の中で地域の活性化に向けた取り組みを進めているが、木曾谷は従来から国有林と各町村とは密接な関係にある。この会議を通して地域の発展と一層の連携に資すればと考えているので、情報、意見交換の場として積極的な議論をお願いする。」との挨拶がありました。

議題は、現行の組織名称に字句修正を柱とする規約の改正について審議・採択が行われ、当協議会が形骸化することのないよう、毎年開催していくことで確認し、併せて、役員選出についても行われ、代表世話人に王滝村長が、世話人に田中木曾町長が選出されました。

このほか、地域のイベント実施に関する国有林野の活用、森林整備に伴うカラマツ等地域材の生産販売、各地で被害が発生しているニホンジカの状況等について活発な意見交換が行われ、有意義な協議会地区総会となりました。

今後とも地域と連携した様々な取り組みを進めつつ、国有林野の円滑な事業運営に努めていきたいと考えています。

シカ被害対策で要望行動

長野県及び環境省へ要望書提出

〔南信署〕南信地区国有林野等所在市町村長有志協議会（伊那谷二十九市町村長）は、十月十五日、長野県内において環境・鳥獣行政を所管する環境省及び県に対して、ニホンジカの被害対策の実施に向けた要望行動を行いました。

近年、南信地区におけるニホンジカの被害は、植林木から高山植物まで広範囲に及び、希少植物の消滅や林地の裸地化による山地崩壊の発生など極めて深刻かつ重大な問題となっております。また、最近では御柱用材へも被害が及び、地元では伝統行事存続の危機とマスコミでも大きく取り上げられています。

その一方で、山村地域において駆除を担う猟友会員の減少・高齢化や市町村の負担する報奨金等の経費の増大さらには、ニホンジカは広範囲に移動し繁殖していることから、各市町村では、「特定鳥獣保護管理計画」に基づく個体数調整の目標達成に苦慮しているのが実状です。

今回の要望内容は、今年八月に南信森林管理署で開催された、同協議会総会で各市町村長から出された意見・要望等を取りまとめたもので、当日は、同協議会を代表して南信森林管理署長が、環境省



長野県林務部久米森林整備課長に
要望書を手渡す久保田署長

長野事務所長や県森林整備課長、自然保護課長を訪問し、ニホンジカの被害状況を写真で説明するとともに、要望書を手渡し「南信地区における被害実態を踏まえ早急に具体的な対策を講じることや、県、市町村の境界を越えた広域的な連携による対策が実施されるよう、関係自治体への指導・助言を行うこと。」などの要望を行いました。

第一回

岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会の開催について

〔岐阜署〕十月二十三日、岐阜地区の国有林野等の関係市町村との意見交換を図るため、十三市町村の首長等と中部森林管理局・技術センター・署関係者などが出席し、平成十九年度岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会を開催しました。

これまで、飛騨川・東濃地域と岐阜・



岐阜地区有志
連絡協議会の様子

中濃地域で個別に開催していましたが、今回、岐阜地区で一体とし、代表世話人を下呂市長、世話人に郡上市長・揖斐川町長を新たに選出し、意見交換を行いました。

最初に、中部森林管理局次長より「美しい森林づくり」に向け多角的な森林整備を推進すること、木材の安定供給、有志協の意義、林政の課題に国有林として率先して取り組む考えでありご理解とご支援を。」、新たな代表世話人の山田良司下呂市長からは「昨年度下呂市で開催された全国植樹祭の成果を踏まえ、関係機関が連携して森林整備の取り組みを広げていきたい。」との挨拶がそれぞれありました。

議事に入り、平成十九年度の業務運営等について企画調整室長・技術センター所長からの説明の後、岐阜森林管理署長より「岐阜署として、林産物の安定供給や金華山等の都市近郊林の利活用、御嶽山や越美山地緑の回廊の保全を中心とした署の取り組み状況、吸収源対策」について説明し、質疑・意見交換を実施しました。

各市町村長からは、長伐期施業による一〇〇年を見据えた森づくりの林政の基本方向に併せて官行造林・分収育林・分収造林の契約満期にともない、伐採時期の延長などの契約の見直し、伐採した造林地の更新等を国として理念にあつた施策を構築することや、緑資源機構等の組織が廃止後の措置、有害鳥獣の被害を防ぐための対策の必要性について活発な意見交換が行われました。

これらのご意見については、十月二十九日に開催される局の連絡協議会に意見反映することとし、盛会に閉会しました。

民有林と国有林の

連携強化をめざして

民有林関係者による国有林視察

〔南信署〕十月五日、浦国有林において、林業・木材関係者を対象とした森林整備・治山事業等現地視察会を実施しました。

これは、流域林業活性化に向けた取り組みの一環とし、南信森林管理署と伊那林業士会、伊那谷流域林業活性化センターが連携して実施したもので、流域内の林業従事者のほか、森林組合、市町村、地方事務所などの林業、木材関係者四十名が参加しました。

当日は、早朝の雨も上がり絶好の秋晴れのなか、流域管理調整官、伊那里森林官、治山第二係長の案内で、石灰岩の断

崖と溪谷に自生するカラマツ、ヒメマツハダ、ヒメバラモミ等を保護する「巫女淵特定地理保護林」をはじめ、間伐予定箇所や治山工事現場、更には、現在、南信地区で深刻な問題となっているシカやクマの被害や防除対策などを視察し、国有林の森林整備や治山事業の取組内容を説明しました。

今回初めて浦国有林を訪れた参加者からは、「三峰川上流域の豊かな自然と雄大な景観に接する貴重な機会となった。」「国有林は奥地で地形が険しく大変なことを実感した。」「今回の視察で国有林がより身近に感じられるようになった。」などの感想があり、伊那谷流域における、民有林と国有林との連携をより一層深めるきっかけとなる視察会となりました。

治山事業や森林整備を紹介

飛驒市、白川村議員が国有林視察

〔飛驒署〕十月十八日に飛驒市議会産業基盤常任委員会ほか担当者の十一名を、十九日には白川村議会及び村長ほか担当十名を招き、森林の保全を図る治山事業や間伐作業などの現地を視察しました。

飛驒市議会での視察は、河合町稲越の滝ヶ洞国有林における復旧治山事業地と宮川町の向洞国有林における森林環境保全整備事業（保育間伐活用型）地で、また白川村議会の視察は大白川国有林の



飛驒市議会の間伐視察

アワラ谷復旧治山事業地及び白山・白川自然休養林で実施しました。

視察会に参加した議員からは「人目につかない奥地で国有林の治山事業が行われていることを知った。」「森林整備として間伐した材を活用する努力が行われていることがよく分かった。」といった意見が出されたほか、貴重なブナ原生林が残る大白川国有林では、白山・白川自然休養林の保護管理協議会の充実など、保全と活用に向けた積極的な取り組みについても話し合われるなど、国有林を活用した地域振興にも期待が寄せられました。

飛驒森林管理署では今後も地域の声を国有林野事業に反映するため、議会や地域住民の視察会に取り組みことにしていきます。

JICA研修生が段戸国有林視察

〔愛知所〕JICA森林監理政策セミナー「地方行政と住民による森林管理（カウンター・パートナー合同研修）」で日

本に訪れているフィリピン等八カ国の研修生一行十名は、十月二十六日、非特定

独立行政法人「穂の国森づくりの会」の案内で設楽町の東三河環境認証森林地を視察した後、愛知森林事務所管内の段戸国有林を訪れました。

当国有林の一八〇年の森づくりを目指しているヒノキ林の人工林長伐期複層林施業群地及び水源林づくりのためのスギ複層林施業試験地の二か所を視察しました。

研修生は、試験地等の目的や施業経過等の説明を聞き入っていました。初めて見る人工林のスギやヒノキに関心があつたようで、最初の質問は「学名は何ですか。」ではじまりました。一瞬、職員が戸惑いながらも答えると研修生は理解したのか頭を縦に振ってうなずきました。これが発端となり、その後は和やかな雰囲気の中で、材の利用先、森林火災対策、鳥獣保護等幅広い分野に亘る質問が次々飛び出しました。

JICAの研修生に現地を見てもらい複層林施業をはじめとする公益的機能の発揮を重視した管理経営に取り組んでいる国有林の姿を伝えられたものと考えます。



豊邦森林官の説明を熱心に聞く研修生

各地からのたより

山・川・海の魅力を体感

【富山署】「山・川・海のワンダーランド」をメインテーマに、黒部市などが主催する「まるごと黒部」が十月十三・十四日の両日、黒部市総合体育センターをメイン会場に開催されました。

この事業は、黒部市が黒部川の急流河川とともに歴史を刻んできた旧黒部市と旧宇奈月町が昨年三月に合併し、合併一周年を記念して、海岸部から標高三千メートルの黒部奥山までの新黒部市の魅力を発信するもので、体験コーナーで森林クラフトを実施してほしいとの要請がありました。

富山署のテントでは、「美しい森林づくり」の取り組みをPRするパネル展示や木のしおり・木のかおり袋を配布しました。

森林クラフト教室では、開会前から多くの子供達がそれぞれの想像力や感性を働かせながら作品を作りました。



森林クラフトを体験

開会式を終えた堀内黒部市長も当署のテントを訪れ、作品作りに熱中している子供達に「いい作品が出来るといいね。」と声をかけていました。

参加者からは「自然のものを使得っての作品作りは体験できないのでいい思い出になりました。」との感想を残し、出来上がった作品を大切に持ち帰っていました。

秋のイベント盛況

【名古屋事務所】十月十四日、尾張旭市市民祭が開催され、名古屋事務所から、パネル展示と、ツバキの輪切り板を使ったステンシルコーナーを出展しました。

ツバキの輪切り板に花や生き物などの型紙に順番に色付けを行い、出来上がると鮮やかな絵の完成です。天候にも恵まれ、家族連れや友達同士など予想を上回る来場者が訪れ終日賑わいました。

また、十月二十・二十一日には、大府市のウッドビレッジ住宅展示場で森の感謝祭が開催され、このイベントにも名古屋事務所から「美しい森林づくり」のPRとパネル展示



「美しい森林づくり」のPRとパネル展示

Rやパネル展示、丸太切りの体験コーナーを出展しました。天候もよく家族連れを中心に大勢の来場があり、ヒノキの香りのする丸太切りでは、「ヒノキのいいにおいがする。」「大変だけどおもしろかった。」などの声が聞かれ、盛況のうちには終了しました。

地図展で「立山・黒部の森林」を発表

【富山署】前人未踏の山とされていた劔岳の測量が行われて一〇〇年を記念して、国土地理院などが主催する、「地図展2007 in 富山」が十月十八日～二十一日まで富山市内の県民会館で開催されました。

十九日には記念講演会が行われ、佐々木上市森林官が二百人を超える入場者の前に「立山・黒部の森林」と題して発表を行いました。

今回の発表は、森林官の新たな発想による取り組みとして、北アルプスを管轄する森林官が、林野巡視の機会を捉え植生分布や史跡等の現地調査を行っていますが、打合せを行いながら中間報告として取りまとめ発表したもので、立山・黒部地区の雄大な自然や貴重な植生の情報を広く発信できたと考えています。

今後現地調査を行い、集まった調査データを取りまとめ、PR用冊子やプレゼンテーション用の資料を作成し、高山植物等の保護活動や国有林野事業のPR



「立山・黒部の森林」を発表する佐々木上市席森林官

また、展示品では平成十六年十一月に富山署が劔岳の登山口に位置する馬場島荘に設置した、早月国有林のジオラマも展示され、来場者たちは熱心に見入っていました。

なお、新田次郎原作の「劔岳点の記」の映画撮影が室堂をはじめ県内各地で行われており、〇九年にロードショーの予定です。

木質バイオマスエネルギーの 利用拡大に向けて 上・下流の連携によるボランティア活動

【南信署】十月二十日、西岳国有林で多摩市と協定を締結している、「遊々の森」(多摩市民の森)において、上・下流の連携による森林ボランティア活動を実施しました。

この活動は、「伊那谷流域国有林野事業流域管理アクションプログラム」の取



ボランティアによる丸太の搬出

り組みの一環として実施したもので、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に貢献する木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた普及啓発を図ることを狙いとし、下流域の都市住民と上流域の地元関係者が連携し間伐材の搬出活動を行うものです。

当日は南信森林管理署の呼びかけに応え、東京都多摩市のボランティア団体「フレンドリーサポーターズ」をはじめ、多摩市役所、八ヶ岳少年自然の家、上伊那森林組合から約三十人が活動に参加し、今年五月から十月にかけて「遊々の森」で多摩市の小学校二十校の児童約一、〇五〇人が間伐・玉切したカラマツの丸太を肩に担いで林道まで運び出し、ペレットストーブ用の木質燃料として加工するため、上伊那森林組合木質バイオマスエネルギー工場（伊那市）へトラックで運搬しました。

人力による丸太の運び出し作業は大変な力仕事でしたが、作業終了後参加者は汗をぬぐいながら、「多摩市の児童らによる森林整備活動に連携・協力でき

てよかった。」「このような活動を通じ、多くの人に地球温暖化の防止などの関心を高めてもらえたら。」などの感想を話されていました。

また、今回の活動は、地元マスコミでも大きく取り上げられ、美しい森林づくりや森林環境教育の推進に向けた国有林の取り組みをPRする絶好の機会となりました。

散策して気持ちの良い

定光寺自然休養林にしよう

（第十三回名古屋CF事業）

「名古屋事務所」十月二十日、青空の下、瀬戸国有林において第十三回名古屋シティ・フォレスト事業を行いました。

今回は、名古屋市を始め、近郊から多くの家族連れや、グループが訪れる定光寺自然休養林内の丸根山周辺と遊歩道周辺を整備し、気持ち良く散策して貰おうと企画しました。

当日は、三十四名の参加者で周辺の雑木や笹等の刈払いと、園地内で伸び放題になっているツツジ等の刈り込み作業を行いました。

前日の大雨も上がり、爽やかな秋の日となり、予定以上に作業が進み、周辺は、みるみる見晴らしが良くなるとともに、ツツジなどの木々もすっきりとし、ハイカーの方々にも気持ち良く散策してもらえるものとなりました。

また、今回初参加の隊員も数名あり、



刈り出されたツツジはすっきりと

「初めての作業で少しきつかったが、達成感がいっぱい、気持ちの良い汗をかいた。」ととても満足そうでした。

もみじ狩りとウォーキング

「東濃署」十月二十一日、中津川市神坂において第七回東山道もみじまつりが開催されました。

この催しは神坂地区の実行委員会が主催し、地元の活性化と地域住民の交流を目的として毎年開催されているもので、湯舟沢国有林内にある、神坂大檜や富士見台周辺への散策も行われることから当署も協賛として参加しています。

当日は天候にも恵まれ、地元住民を中心に約五十名が参加、秋の風を感じながら、もみじ狩りとウォーキングを楽しみました。

途中新しく整備された風穴を見学した



山腹工の説明に聞き入る参加者

後、遠くに御岳、乗鞍岳をながめながら往復一時間半の行程を歩き、神坂大ヒノキでは、その大きさに参加者からは驚きの声がかれました。途中、姥ナギ沢の山腹工事箇所では、職員が説明を行い、参加者からは「崩れた土砂はどうなるの。」等の質問や「自然相手は大変ですね。」との感想が聞かれ、自然を守る取り組みの大切さを感じていくようでした。

鑑賞炭づくりと

炭のパワーを知ろう

（第七回森林ふれあい講座）

「名古屋事務所」十月二十七日、第七回森林ふれあい講座を定光寺自然休養林内の定光寺キャンプ場で開催しました。

今回の講座は、観賞用の簡易な炭焼き体験、竹炭の窯出し、炭の効果・効用について活用事例をまじえながらの講義という形で行いました。

鑑賞用の炭焼き体験では、参加者が各自持ち寄った松かさ・ドングリ・ピーマン・ヘチマなどを粉砕と一緒に空き缶に入れ、火力を調節しながら、一時間程で鑑賞炭にする工程です。

参加者は炭にしたい材料を粉砕と一緒に缶に丁寧にに入れていました。焼き上がるまでの時間は、黒炭と白炭の違いや、水質浄化・燃料用・消臭効果等いろいろな場面で活用されている炭について勉強しました。

また、既に焼き上がっている竹炭の窯出しも体験し、炭窯の構造や火加減の難しさなどについて学びました。

講義が終わる頃には鑑賞炭も出来上がり、自分が持ってきた材料が上手く炭になっているかワクワクしながら慎重に缶を開けていきました。材料を取り出してみると、どれも上手く出来ていましたが、果実など含水量の多いものは焼けなかったものもありました。

参加者は、鑑賞炭の作り方や炭について関心がある人が多く、有意義な講座となりました。



炭焼きを体験して

「森と木とのふれあいフェア 2007」が開催される

〔岐阜署〕十月二十七日～二十八日の両日、岐阜県主催の「森と木とのふれあいフェア2007」が開催されました。例年、岐阜県農業フェスティバルと共催して開催されており、二日間で十六万人を見込んでいた秋の大イベントです。

今年の一日は生憎の天候で、来場者は少なめでしたが、二日目は晴天に恵まれ多くの市民で賑わいました。

主な出展者は地域の協同組合・NPO・NGO・企業・公共機関などで県内各地区から三十九のブースの出店がありました。

当署も岐阜事務所時代から出店しており、今年も岐阜森林事務所駐在職員を中心に十一人のスタッフでブースの対応をしました。

当署の出展内容は「森のクラフト教室・木工品販売」を行い、今年も待ち時間が出るほどの盛況で、他のブースをしのぐ来場者でした。

当署のブースは体験型ブースであり毎年、このブースを楽しみに来場する家族



真剣にクラフトを作って

も見え、リピーターも居るほどです。晩秋の岐阜での一大イベントも終わり、岐阜地方も足早に冬支度への足音を早めています。

地元住民が天然林を満喫

〔東濃署〕十月三十日、恵那市上矢作町において、地元の上矢作まちづくり委員会主催による「風の森ウォーキング」が開催され、地元から集まった三十五人の参加者と共に当署も協力者として参加しました。

このイベントは地元の観光PRを目的として開催されたもので、樹齢二五〇〇年を超えるといわれる弁慶スギや今年完成した風力発電施設の見学に続き、上村恵那国有林内にあるアライダシ自然観察教育林を散策しました。

この教育林にはブナやモミ、ツガ等を主体とした天然林が広がっており、以前から観光スポットとして知られていましたが、今年、地域発案システムのひとつとして、地元協力により教育林の案内パン



樹木の説明に聞き入る参加者

フレットを作成したことから、イベントが開催されるきっかけともなりました。参加者は紅葉に彩られた教育林を歩きながら、清々しい一日を過ごしていました。

水木沢天然林で育樹祭

〔宋曾署〕平成十九年度育樹祭を十一月一日に木祖村小木曾国有林の水木沢天然林において実施しました。

秋の日差しに恵まれた開会式では、青空に時折吹き上げる風にコナラの紅葉が枝を離れ会場に降り注ぎ、参加者は秋の深まりを感じていました。

当日は、木祖村をはじめ、水資源機構、木曾地方事務所、管内町村、関係機関、林業事業体及び関係団体等の関係者約一〇〇名と、多くの職員が参加して既設の遊歩道に木質チップを敷き詰める作業を行いました。

木質チップは歩道にかかる樹木の根を歩行圧から守り、土壌の流失を防ぐと共に歩きやすくする等の目的で実施したものです。

今回の育樹祭には、味噌川ダムを管理する水資源機構からも積極的な協力があり、昨年の豪雨災害でダムに流出した流木をチップ化して提供されました。午前中の全員作業と午後の職員による作業とで約一五〇ほど敷き詰めが完成しました。

今後も各種機会を捉えて、更に延長を

【東濃署】十一月五日、紅葉真っ盛りの中津川市加子母裏木曾国有林において、地元の付知北小学校五年生三十二人を対象に森林教室を実施しました。

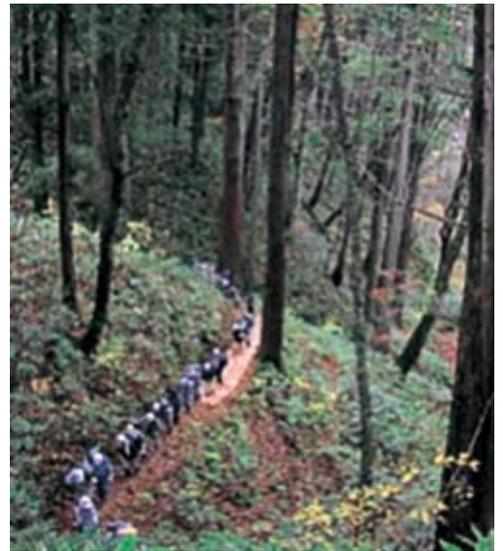
この森林教室は、春に一度実施していますが、雨天により、体育館での森林教

紅葉に囲まれ元気に散策

延ばしていく計画です。

近年育樹祭は上松の小川入国有林で実施してきたところですが、平成二十年度に木祖村水木沢等において全国の源流サミットが開催されることとなり、木祖村が中心となることから国有林としても協力して整備に取り組むこととなりました。

午後には降雨があったものの、十一月としては暖かく恵まれた天候の中で実施することが出来ました。



大サワラ付近を運搬する参加者



滝に到着し、喜ぶ子供達

室で終わっていたところ「実際に自然の中を歩かせたい。」との学校からの強い要望があつて改めて実施しました。

当日は晴天に恵まれ、少し肌寒さを感じる気温でしたが、子供達はドングリなどを探しながら全長約二キロの遊歩道を元気に歩いていました。

昼食後には木曾五木について、職員が手作りで作製したヒノキやコウヤマキなどの模型を使った説明を行い、子供たちはその樹種毎の特徴について熱心にメモを取っていました。

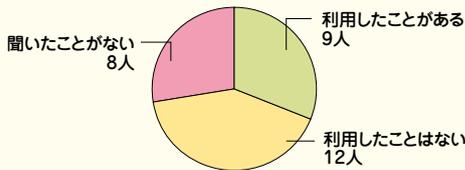
第2回国有林モニターアンケートの結果概要

企画調整室

平成19年度国有林モニターへのアンケートを10月に実施しました。今回のテーマは「森林レクリエーション」と「森林整備」です。結果概要は次のとおりです。

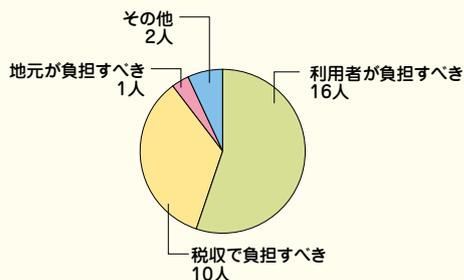
問 国有林では、森林浴、自然観察、野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」に設定しています。こうした「レクリエーションの森」を利用したことがありますか。

解答



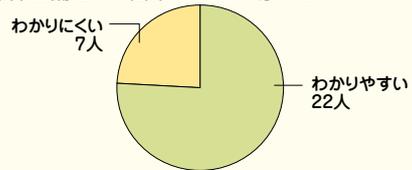
問 「レクリエーションの森」の施設整備に必要な費用について誰が負担するべきだと考えますか。

解答



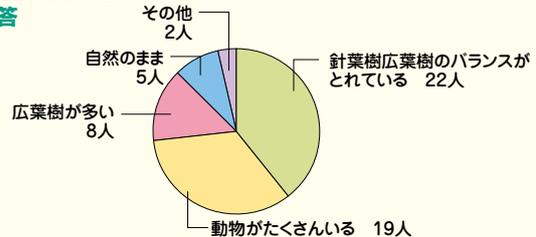
問 森林整備という言葉はわかりやすいですか。

解答



問 これからの国有林は、どんな森林を育てていけばいいですか。(複数選択)

解答



問 森林整備という言葉から何をイメージしますか。(複数選択)

解答

- 混み合っている木を切り取る 15人
- 木を植えて緑を増やす 14
- 苗木を守るため下草を刈る 14
- 枝打ちをしたり、つるを切る 13
- 動物等が生息できる森林を作る 10
- 木材の収入で跡地に木を植える 6
- ブナ等を邪魔する低木を切る 3
- 木材を供給できる木を育てる 3
- 歩道を整備して歩きやすくする 3

新技術の取り組み

「岐阜署」民有林直轄治山事業の板取川地区で、現地発生土砂の有効利用を図るためソイルセメント（INSEM）工法を試験導入し、谷止工の施工を行っています。

この工法は、現場で発生する掘削土砂や河床砂礫とセメントを施工現場で攪拌・混合し、大型積みブロック谷止工の中詰め材として構造物を構築するもので、河床に堆積した多量の土砂の有効利用を行うとともに、施工工期の短縮、コスト縮減等を図れる工法です。

試験施工を行っている谷止工は、堤長一〇七・五メートル、堤高七メートル、体積二・八六三立方メートル、重力式谷止工と同程度の断面形状と安定性を有する構造となっております。

現在、各種のデータ収集を行っており、今後、解析を進めながら技術の確立を図りたいと考えています。



谷止工の作業の様子

実験林・試験地等紹介



「森林技術センター」管内国有林には、ササ型林床となっている森林が多くあります。

このような林床におかれた標高の高い箇所では、天然力を活用して更新を図る漸伐施業等が実施されてきましたが、気象や土壌等の自然環境のほか、カモシカや野鼠等による獣害など複数の厳しい条件下にあり、一部の箇所においては一定期間を経過しても更新が進まず、未立木のままの状況がみられたため、これらの更新未了箇所を早期に更新させるための手法が課題となりました。

このため、公益的機能の高い森林整備の推進に資することを目的として、過去の施業経緯や林況、植生、地質等の各データを収集・調査・分析することにより、最も有効と考えられる施業方法・更新技術体系の確立を図るため、伐採方法の異なる皆伐跡地、人工林漸伐跡地及び天然林漸伐跡地の三タイプの施業実行地にそれぞれ試験地を設定しています。

試験地には、笹のコントロールに最も有効な林地除草剤を散布し、その後のササの再生状況・土壌流亡状況・自然現象

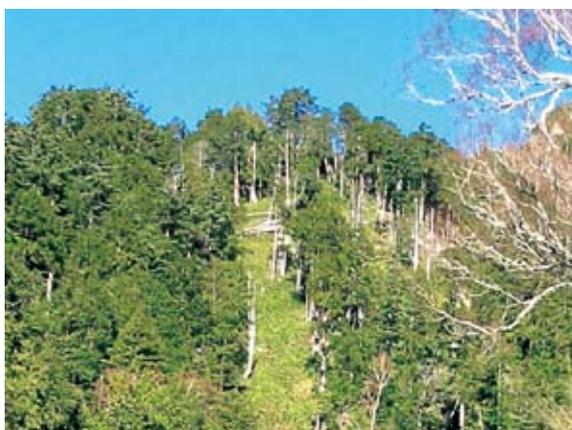
などによる稚樹の発生や生長の阻害因子を検証することにより、効果的な更新を図るため、地がき・山引苗の植栽・播種・林縁植生の伏設など各種の更新補助作業を実施しています。

また、更新樹の食害防止のため殺鼠剤の散布やヘキサチューブの設置など保護対策を行い、試験地タイプ毎の更新状況を把握するため、調査し経過を観察しています。

なお、平成二十年度にはこれまで十年間の調査結果を取りまとめることとして

所在地：岐阜県下呂市小坂町

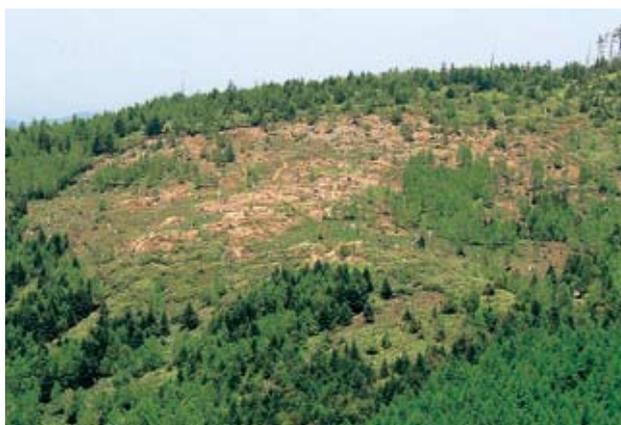
落合国有林63か64ぬ林小班
大洞国有林191ね林小班



天然林漸伐跡地（63か林小班）



人工林漸伐跡地（191ね林小班）



皆伐跡地（64ぬ林小班）

ふう けい き こう
風景紀行
 徳川家康公ゆかりの地
鳳来寺山
 31
 愛知森林管理事務所
 (各署の景勝地等を紹介)

徳川家康公ゆかりの地 鳳来寺山

「愛知所」"仏法僧"と鳴くコノハズクの声が聞かれる鳳来寺山は、当所の豊橋森林事務所管内に所在する棚山国有林と連なる旧火山群の最南端にあつて、東三河平野を隔て三河湾を望む事が出来ます。

この山は、約二千万年〜千五百万年前に数回の火山活動によつて噴出した流紋岩漿による松脂岩や石英安山岩等で構成されており、その後の地殻変動と風化浸食作用によつて原形を失い、現在の険しい岩山となつています。その特異な山容は古くから信仰の対象とされてきました。

鳳来寺山頂中程にある鏡岩と呼ばれる大岩壁の下に建つ鳳来寺は、特に子授けの薬師如来として評判が高く、松平広忠夫妻が祈願して授かつたのが、後の天下人となる徳川家康であつたと伝えられています。

また、薬師如来に祈願する際は鏡を奉

納する習わしがあり、鏡は衆生の願いごとを写し叶えるとされておられ、現在では鏡が付いた「鏡絵馬」が沢山奉納されています。

【参考】

杉の巨木（樹齢約八〇〇年）が立ち並ぶ石段を登りきると家康公を祀る朱色の東照宮があり、日本三東照宮の一つとなっています。昭和二十八年には本殿拝殿、幣殿、中門、透門、石棚、石燈籠等が国の重要文化財に指定されています。また、紅葉の名所になっている鳳来寺



鏡の付いた絵馬

山は毎年、十一月二十三日に「鳳来寺山もみじ祭り」が催され、車やバスで来る多くの人たちが賑わっています。

**◇アクセス方法
【公共交通機関】**

JR 飯田線「本長篠駅」
 豊鉄バス約八分「鳳来寺」
 下車、徒歩六十分
 もしくは豊鉄バス「鳳来寺山頂」下車



紅葉の時期の鳳来寺山



家康公を祀る東照宮

行事・会議等の予定

- ◎森林ふれあい講座
12月2日 愛知所管内
- ◎国有林野直轄治山ヒアリング
12月4～14日 中部森林管理局
- ◎本庁監査
12月10～14日 中部森林管理局
- ◎低コスト現地検討会
12月13日 木曾署管内